



埼玉県立浦和西高等学校  
Urawanishi High School

発行日 平成28年10月21日

学校通信 ～西高は今～

発行責任者 校長 高野 能弘

HP <http://www.urawanishi-h.spec.ed.jp>

10月の西高での出来事をお伝えします。  
今月号は修学旅行特集です。

座右の銘、そして  
校長 高野 能弘

最近、「座右の銘」を聞かれることが多くなってきました。「座右の銘」、辞書を調べてみると、『自分が座する場所の右手、つまり、もっとも身近において、「心に銘じる」つまり、心に刻み、印象付ける、重要な「人生の方針」や「言動の方針」などと説明されています。

下世話な話かもしれませんが、自分の言葉で、この座右の銘を考えると、「生きるために食っていく」、「食っていくために働く」であると思います。自分自身や家族のために働き、経済的、社会的に、そして精神的に自立を目指すことが大切なのだと思います。

そのうえで、さらに私が「生きていく」ことを考えると、生きていくなら「よりよく生きていく」ことを目指したいと思っています。自分が生きること、働くことが、少しでも周囲の、世の中のお役に立てる、そんな生き方を目指せば幸せなのだろうと。自分にとっても、やりがい、達成感のある生き方ができればいいと考えています。そして死ぬときに「やった」といって命を閉じられればいいと思っています。残念ながら自分自身には、正直、弱さもある。そんなにかっこよく生きられないかもしれません。できることならば、自分の思うように生きていければと願う今日この頃です。

新田次郎の『剣岳〈点の記〉』を読み、映画化された作品も見ることができました。剣岳（つるぎだけ）は北アルプス北部の立山連峰にある標高2,999 mの山で、日本では数少ない、現存する氷河を有する山です。弘法大師が草鞋三千足を費やしても登頂できなかった、という伝説があり、明確な記録に残る初登頂は、明治時代末、陸軍参謀本部陸地測量部の測量官、柴崎芳太郎の測量隊によるものであるといわれています。その柴崎芳太郎が、地図作成と初登頂を目指した小説がこの作品です。点の記（てんのかき）とは、三角点・水準点などの基準点の設置・測量の記録のことです。

主人公の柴崎は、命を受け、地図の作成のための測量と剣岳の初登頂（実は・・・）を目指し、その任務を完遂します。その中で、測量官の先輩の古田盛作が発したのが、「何をしたかではなく、何のためにそれをしたかが大事です。」

という映画での言葉です。

ここ数年、私の心に残っている言葉です。

\*\*\*\*\*  
私は他人にどう見えるかということよりも、むしろ私自身の中で、どんな人間であるかを気にする。借りものによってではなく、私によって富みたいと思う。

（ミシェル・エケム・ド・モンテーニュ）

\*\*\*\*\*

#### 1 「よりみち西高（講）座」（10/1）

第2回「よりみち西高（講）座」として、哲学者・内山節さんの講演会が行われました。

『いま私たちにとって自由とは』という演題で、「自由」についてさまざまな観点からのお話をいただきました。在校生、卒業生、PTA・後援会の皆様に多数参加していただき、心地良いひと時を過ごすことができました。内山節さん、お忙しい中本当にありがとうございました。



哲学者・内山 節（うちやま たかし）さん

## 2 修学旅行(10/13~16)

修学旅行1日目(10/13)は平和学習として、壕体験、平和記念公園・資料館、ひめゆり資料館を見学しました。



壕体験



戦没者の慰霊

2日目(10/14)は、午前中はマリン体験・カヌー体験・むら咲むら体験・基地問題学習と別れて活動し、午後は美ら海水族館を見学し、その後、民泊体験に入りました。マリン体験は、バナナボートとシュノーケリングをしました。休憩中には、ビーチバレーもして盛り上がりました。



興奮のバナナボート



思い出のビーチバレーボール

美ら海水族館では、ジンベイザメの餌やりも見られました。大迫力です。



美ら海水族館の大水槽

3日目(10/15)は、民泊体験です。本部周辺を観光したり、民泊宅のご家族と一緒に過ごしました。4日目(10/16)は、民泊宅のご家族とお別れして、国際通りを散策して、羽田空港に着き、無事に解散しました。



今帰仁(なきじん)城跡とロックハートを見学